



CLONE ALONE



2031年
6月22日

ん……



…おはようございます
ご主人様



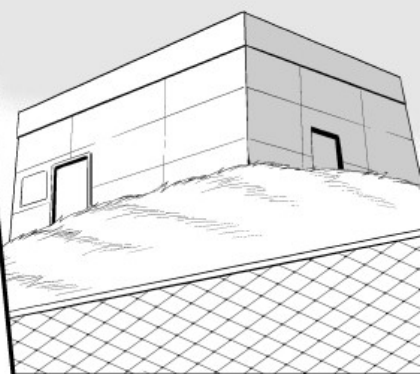
どうかその手で
私を殺してください

キュクルが狂った

俺は河野彰
いづみあき

ニユーメキシコ州の郊外に
研究所を構え
クローン技術の開発及び
研究に取り組んでいる

その研究過程で出来た副産物が
この獣人型ヒューマノイドだ
名前をキュクルと名付けた



副産物とは言え
キュクルを造っていた期間は
寝食を惜しんで研究に
没頭したもんだ

他人との関わりを
極力避け続けてきた俺でも
独りは寂しかったのかも
知れない

知能は人と同等がそれ以上
生後一週間程で会話が
成立するまでには言葉を
覚えていた

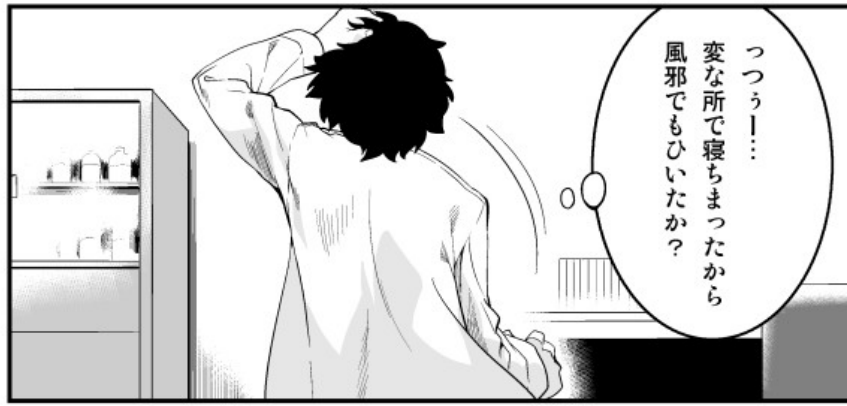
Wow!
ハダカが!! っほい

性格は従順且つ無垢
助手を任せられるまでに成長し
今では良きパートナーとして
俺に仕えて貰っている

そんな聡明な彼女だからこそ
何故こんな事を唐突に言い出したのか
俺には分からなかった

どうしたんだ
キュクル…?









すまなかったよ…
普段から気にかけているつもりでも
どうしても都合の合わない時が出てきて
しまうんだ

……

葛藤中

ゴキッゴキッゴキッ

ゴキッ

ほら、脚をひらいて

が

ぽ

うむ、素直が
イチバン！

……はい

それじゃあ入れるぞ

ひゃっ、んあ！

ピクッ

よしよし、良い具合に
ほぐれてるな

ゴキッ



やだあつ！もうオモチャはいやあああ！

んぎやあうっ！！



カチッ



…？



やだあ！

い…イクっ！
イクイクううっ！！

ホラホラ、いつちやえよ
イクところ見ててやるからさ

だ…めえっ！



さつきまでは好んで
啜え込んでたじやないか？

だってそれはあ…ご主人様が
んあああ！

ガイン
ガイン







ご主人様が…ここに
あるの…あっ♡

分かりますよ♡

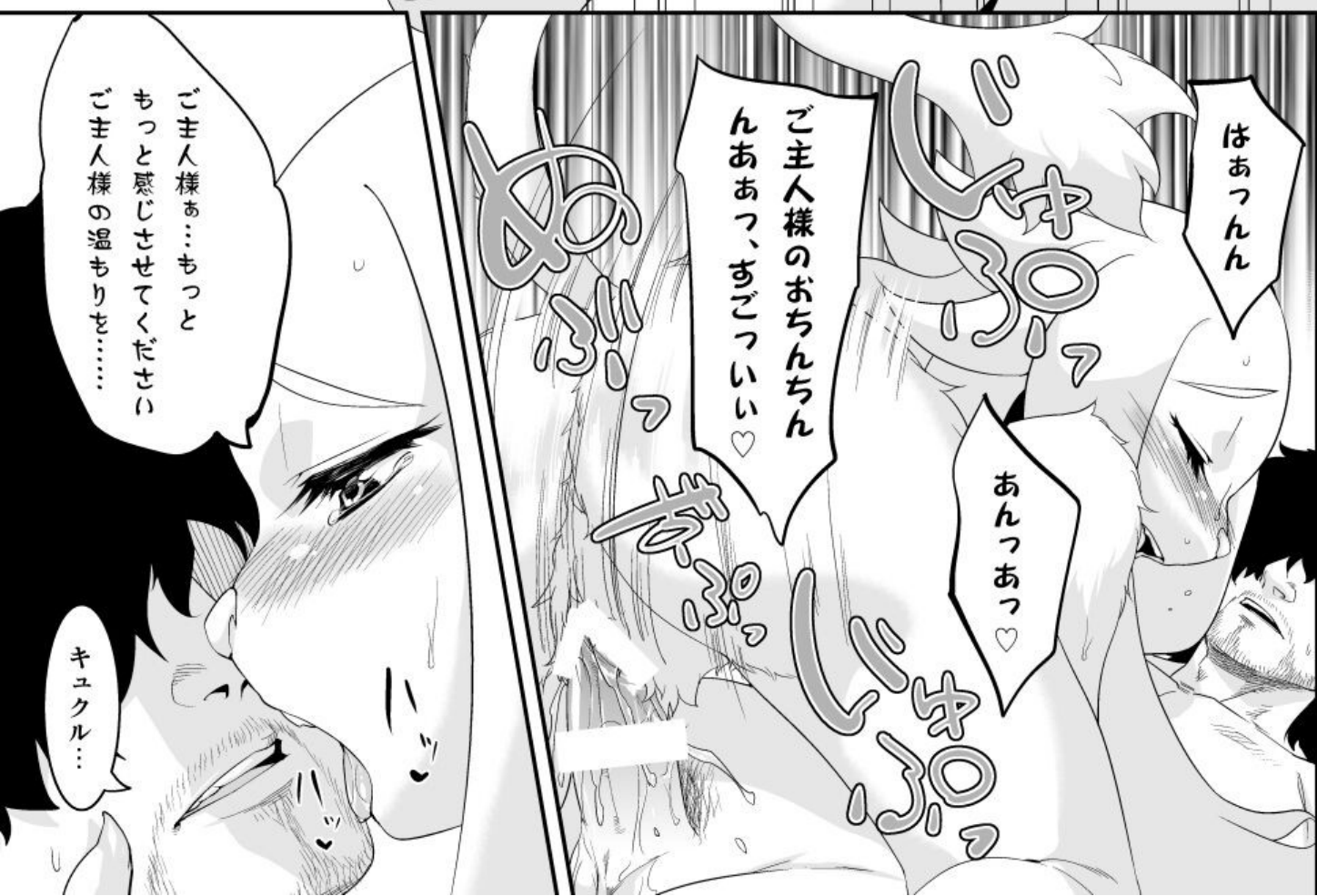
ぎゅっ♡
うっ♡



今日はたっぷり付き合っ
て貰いますから…んんっ♡

ぎゅっ♡
ぎゅっ♡

ぎゅっ♡
ぎゅっ♡
ぎゅっ♡
ぎゅっ♡
ぎゅっ♡



はあっんん

あんっあっ♡

ご主人様のおちんちん
んあっ、すごいい♡

ご主人様あ…もっと
もっと感じてさせてください
ご主人様の温もりを……

キュクル…



ずっと欲しかったの…
ご主人様のおお♡

あんっ、いいっ
キモチいいよぉ♡



あうっ…もっ
腰打ちつけてんぞわっ
あぁっ♡

好きいつ！
ご主人様の事が
好きなんですぅ♡

全部欲しいですっ♡

一滴もこぼしちゃいやあ
ご主人しゃまの熱いの
膣内にい…♡♡



—三日後

ご主人様ー
お食事の用意が
出来ましたよー！

ああ、すぐ行くよ

最近やけに体調が
おかしい
どうなってんだ…

！

何だ、これは……
クローン人間第三世代の
体細胞の劣化に関する文書だ

こんな物、一体誰が…？



なあ河野よ
アレがそうだろ、例の獣人型
ヒューマノイドってのは？

それがどうした？
用が済んだのなら
お帰り願いたいんだが…

実はうちのラボでよ、その生物が
話題に上がってね
一度相互研究の為に貸しちや
貰えねえかなって、な？

断る

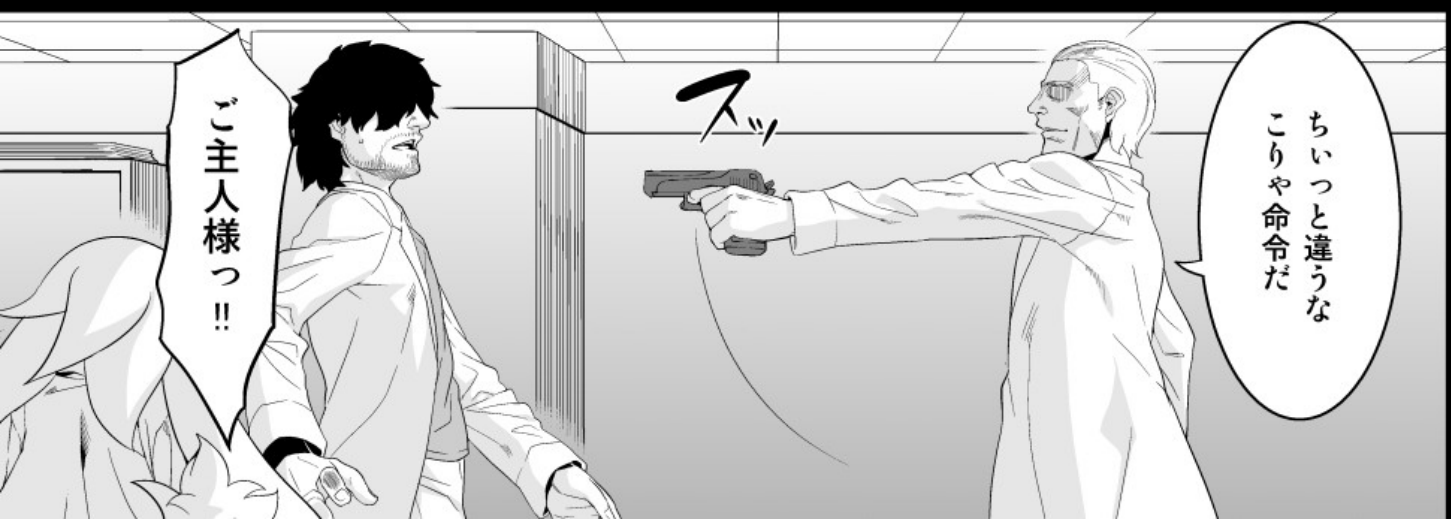
あの子はモノじゃない
例えモノ扱いしたとしても
私の大事な作品だ

…あのよオ

理事会がアンタに目を掛けて
るとは言え
俺はアンタが嫌いなんだ

へんび
こんな辺鄙な所にラボを
持ちやがって
わざわざ物資を運ばされる身にも
なって欲しいもんだね

……





おっと、お前も妙な行動は
起こすんじゃないぞ

お前のご主人様が大切なら
大人しく俺について来るんだ



キュクルツッ!



惨めだよなあ
河野よお?

アンタは自分のペット一匹
守る事が出来ないん
だからよ











やはり…俺は……

そっか…



俺は死んでいたのか



……残り、2週間ほどだと思えます…

チカ！

チカ…



俺の寿命はどのくらいだ？

恐らくだが、強引な促成によって
テロメアDNAが極端に短くなっている
筈だ…



キュクル…教えてくれ



2週間…か



俺は研究を止め、残りの時間を
キュクルの為に使う事にした



不思議と
それまでには無かった
充実した日々がそこにはあり

研究だけが生き甲斐だと思っていた俺だが
俺の生き甲斐はキュクルと共に
ある事なのだと
改めて気付かされた



現在、私は
ご主人様が以前在籍していた
研究所で、研究員として
受け入れて貰っています

マシユーさんに関しては
「不幸な事故」と言いつ事で
処理されていきました

ご主人様のいない世界は寂しくて
孤独に押し潰されそうです

私もいつそご主人様の元へ
行けたらって…
そんな事ばかり考えちゃって
怒られちゃいますね



でも、どうか
安心して下さい

これからは顔を上げて
生きていきます

私の存在自体が
ご主人様が私を愛してくれた
証拠ですから

キュクルの独白

ご主人様にとって、私はどう言う存在なのだろう？
研究の助手？

恋人？

ペット……はやだなあ。

私はご主人様を支えてあげられる唯一無二の存在になりたい。

ご主人様の、たまに見せる凄く寂しそうな顔が、私にそう思わせてくれるんです。

でも神様はあまりにも無常で、そんな私のささやかな願いはいとも容易く踏みにじられました。

マシューさんが研究所に来た、あの日に。

正氣に戻ったときには、私は紅い海の中一人佇んでいました。

私は抜け殻になってしまったご主人様にすがりついて、泣きじゃくって、そして……踏み込んではいけない領域に飛び込んでしまったんです。

後日、マシューさんの同僚の方が数名、この研究所を訪ねて来られてこう言いました。

「こちらに物資を運びに行って以来、マシューと連絡が取れなくなったのですが、

何か知りませんか？ 河野さん」

いや、知らないな、と首を横に振るご主人様。

私の生活は元通りになっていました。

元通り……十字架を背負って。

急激な促成によって造られたクローンの体は長くは持たない。

この事実に関心したのは、二体目のご主人様が壊れた時でした。

そして私は、ある決断をしました。

三体目のご主人様に全てを打ち明けて、研究の協力を求めたんです。

狂気に身を委ねる私がそこにはいません。

ご主人様は戸惑いを隠しきれない様相でしたが、協力を承諾してくださいました。

しかし問題は解決せず、『クローン人間第三世代の体細胞の劣化』というレポートを残し、三体目のご主人様は静かに息を引き取りました。

ご主人様を造るのはこれで何回目だろう？

七体目？ 八体目？

もしかしたら十体以上作ってるかもしれない。

三体目のご主人様が壊れてから、私はクローン人間の延命方法を考えなくなりました。

私が望んだ事とは言え、研究に掛かりきりで相手にされない期間は酷く寂しいものだったから……

ご主人様のそばにいる日常、それが一番幸せなんです。

しかしそれは、ご主人様を造り、結果的に殺すことによって成立される日常。私の精神は既に耐えきれるものではありませんでした。

このご主人様で最期にしよう。

ご主人様は受け入れてくれるかな。それ以前に、また全てを話す勇気が私にあるのだろうか。ほら、ご主人様の瞼が上がってきた。

「おはようございますご主人様。どうかその手で私を……」



【奥付】

Clone Alone

発行者：んめ/GREONE

発行日：2013.12.31

ダウンロード版：2017.1

E-mail：oil-painters@hotmail.co.jp

pixiv：id=3961

twitter：nme_greone

無断転載、ネットへのアップロードは禁止しております。

Reprint is prohibited

